

情報提供

那医発第 220 号
令和 5 年 7 月 3 日

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 友利 博朗
理 事 宮城 政剛



平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。
沖縄県医師会を通じて「リーフレット「採血・血管確保時の痛み・しびれへの対応」完成のご案内」の通知が届きましたのでご案内申し上げます。

☆ 問合せ先 (那覇市医師会 事務局:宮城・前泊 /電話 098-868-7579)

.....記.....

沖 医 発 第 5 0 1 号

令 和 5 年 6 月 2 7 日

地区医師会長 殿

沖縄県医師会
会 長 安里哲好



リーフレット「採血・血管確保時の痛み・しびれへの対応」完成のご案内

京都府医師会から、標記リーフレットの案内がありましたので、お知らせ致します。
本リーフレットは、採血や血管確保時の穿刺行為で生じた痛み・しびれなどについて、そのリスクの軽減と、生じてしまった際の適切な対処方法等を取りまとめものとなっております。

つきましては、ご多忙の折誠に恐縮に存じますが、貴会におかれましても本件についてご了知いただきますとともに、貴管下会員に対する周知方についてご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

※ 本リーフレットの PDF データは、京都府医師会ホームページに公開されております。

※ 掲載場所：京都府医師会ホームページ→「医療安全対策」ページ

※ <https://www.kyoto.med.or.jp/member/medical/pdf/202303blood%20collectionA4.pdf>

記

● リーフレット「採血・血管確保時の痛み・しびれへの対応」完成のご案内

(令和 5 年 6 月 14 日 (京医発第 194 号))

沖縄県医師会事務局業務 2 課：平良亮

TEL：098-888-0087

FAX：098-888-0089

g2@okinawa.med.or.jp



京 医 発 第 194 号
令 和 5 年 6 月 14 日

都道府県医師会長 殿

一般社団法人京都府医師会
会長 松 井 道 宣
(公 印 省 略)

リーフレット「採血・血管確保時の痛み・しびれへの対応」完成のご案内

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、本会に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本会では会員医療機関における医療安全対策の向上を目指し、毎年様々な検討を行っております。この度、京都府医師会「医療安全対策委員会」にて「採血・血管確保時に痛み・しびれが生じてしまった際の対応」に関するリーフレット（A4サイズ、計4ページ）を作成致しました。

採血や血管確保などの医療行為は、医療者が最も頻回に行う医療行為のひとつです。各々医療機関におかれましても安全性担保のため様々な工夫をされている事と存じますが、万が一有害事象が起こった際にどのように対処するかも大きな課題となります。本リーフレットは、採血や血管確保時の穿刺行為で生じた痛み・しびれなどについて、そのリスクの軽減と、生じてしまった際の適切な対処方法を取りまとめました。採血時のリスク低減のための注意事項、対応手順のフローチャート等を盛り込み、実際に痛み・しびれなどの訴えを受けた際の参考にしていただける内容となっております。

つきましては、僅かではございますがリーフレットを同封申し上げますので、是非貴会でもご高覧いただけましたら幸いに存じます。

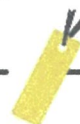
なお、PDFデータを本会ホームページで公開しておりますので適宜ご利用ください。（ホームページ掲載場所：京都府医師会ホームページトップ → 医療安全対策 <https://www.kyoto.med.or.jp/member/medical/index.shtml>）

敬白

事務局	一般社団法人 京都府医師会 医療安全課
連絡先	TEL : 075-354-6505 FAX : 075-354-6074



採血・血管確保時の 痛み・しびれへの対応



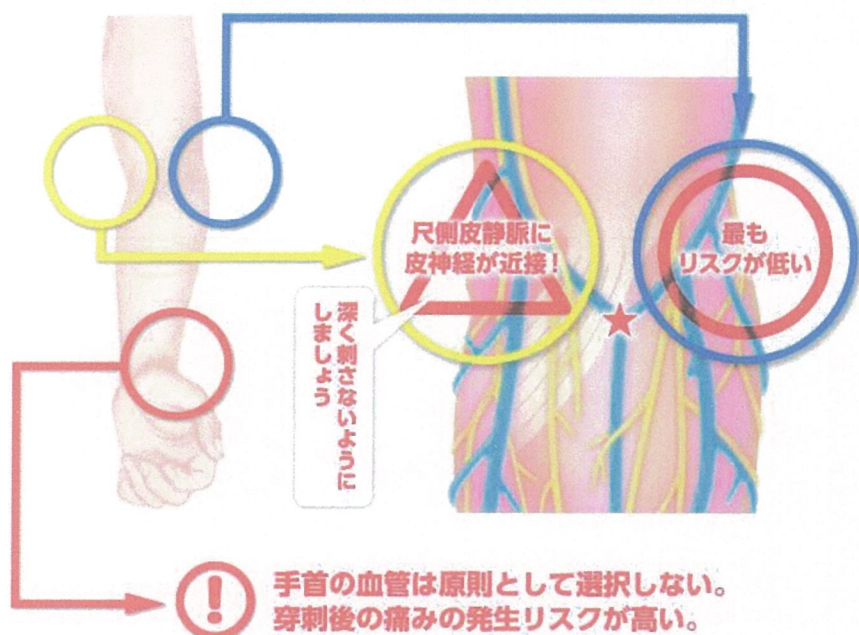
採血や血管確保での穿刺行為で痛みやしびれが生じることがあります。
本パンフレットは、痛みやしびれのリスクを軽減すること、発生した場合に速やかな対応をとることを目標に京都府医師会が作成したものです。
本パンフレットに記載されている注意点を遵守しないことで生じた結果に対する法的責任が必ずしも医療従事者に発生することを意味するものではありません。

採血・血管確保時の注意事項

(リスクの低減のために)

POINT
01

穿刺後に痛み・しびれをきたしやすい血管を選ばない



★ 腕側皮静脈によい血管が見つからない場合は、正中皮静脈が第二選択になることもあります。

POINT
02

穿刺後痛の発生要因を避ける

- ・ 血管に挿入できずに穿刺しなおす時には、同じ部位には穿刺しないように しましょう
- ・ 穿刺してから、針を動かしながら血管を「探らない」

POINT
03

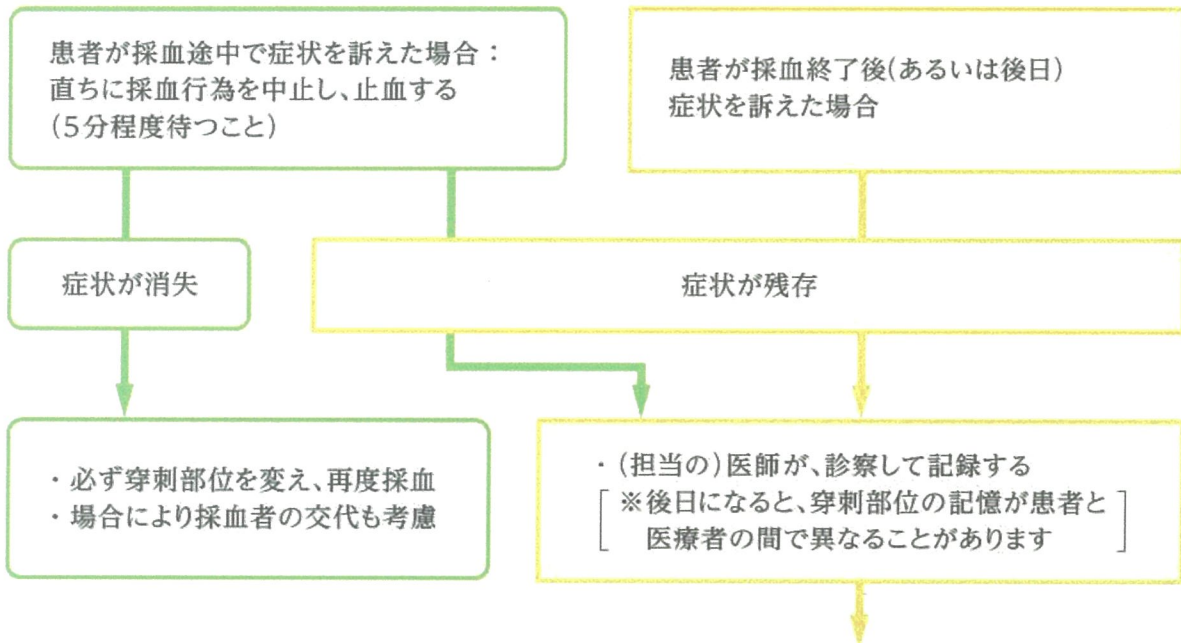
穿刺時に痛み・しびれの訴えがあれば早期に対応する

- ・ 穿刺時、「指先に電気が走った感じ」「指先が痺れる感じ」について声をかけて確認するように しましょう。
- ・ 通常の穿刺痛と違い、「痺れを伴う疼痛」「灼熱感」「放散する疼痛」などの訴えがあれば、落ち着いて穿刺行為を中止し、針を抜く





採血時等の痛み・しびれへの対応手順



(自由記載欄)

～自施設の対応をあらかじめ決めて、記載しましょう～(※枠内に記載してください)

【自由記載欄の書き方について】

この項目は、主に各医療機関で担当医が患者の初期対応を行った後の流れを記載する項目です。以下を参照し作成してみましょう。

「院内に専門の医師がいる場合」

患者には、院内にいる専門の医師による受診を勧める流れを考慮し、事前に手順を打ち合わせて、記載しておきましょう。

「院内に専門の医師がない場合」

他院への紹介を考慮する場合、紹介状は可能な限り詳しく作成しましょう。受け入れ先となる医療機関は、予め決めておき、平時からコミュニケーションに努めることが重要です。また紹介した後も患者の完治までフォローを欠かさないなど、注意点をまとめて記載しておきましょう。

痛みの訴えがあった際の医療機関の心構え

- ・ 痛みには、侵害受容性疼痛（外傷等による痛み）、神経障害性疼痛（神経の損傷による痛み）、痛覚変調性疼痛があります。
- ・ 痛覚変調性疼痛は、不安等の心理的要素が関与する痛みですが、その場合も現実の痛みとして、真摯に対応することが大切です。
- ・ 患者さんの痛みの訴えを具体的に聞き取って、患者さんの言葉でカルテに記載しましょう。（「ビリビリした痛み」等）
- ・ 痛みの診断は難しいことを理解しましょう。神経伝導速度等に異常がなく、神経損傷の客観的データがない場合でも、強い痛みが生じることがあります。



患者さんとの共通理解も重要

- ・ 採血や血管確保を正しい手技で行っても、一定の割合で痛みやしびれが発生することがあることを医療者も患者も理解しておく必要があります。
- ・ 京都府医師会では、採血前にリスクについて患者さんにお伝えするポスターを作成し、ホームページ上で公開しています。

<https://kyoto.med.or.jp/member/medical/index.shtml>

発行 一般社団法人 京都府医師会
監修 京都府医師会 医療安全対策委員会
発行日 2023年3月